

# 府中かんきょう 市民の会

2002年 秋号  
10月9日発行／季刊  
発行人：横山永望  
連絡先：府中市浅間町4-18-12  
TEL & FAX： 042-362-2684



保存運動が始まった白糸台2丁目の掩体壕。現在は倉庫代わりに使われ、屋根は子どもらの遊び場になることもある。(甲州街道の多摩川線跨線橋から撮す)

## 戦争記念物「掩体壕」 保存運動がスタート

「掩体壕」(えんたいごう)という戦争用語を知っている人は少ないでしょう。「掩体」は「射撃を便にし且つ敵弾に対して射手などの行動を掩護する諸設備」、「掩護」は「敵の攻撃からかばうこと」と広辞苑第1版にはあります。

掩体壕とはつまり、第2次世界大戦末期において、米軍機から日本軍の戦闘機を隠して温存する目的で、本土爆撃という戦況の悪化から急遽建造された飛行基地周辺に付随した施設です。掩体壕は戦闘機の形状に合わせて、開口部の間口が広い扇型をした厚さ30センチほどのコンクリート製で誘導路を通じて調布飛行場につながっていました。壕の表面を土や緑でカムフラージュした掩体壕は当時数十基存在したと言われていたようですが、詳細は明らかではありません。

掩体壕は当時の調布飛行場を基地とする旧陸軍戦闘機『飛燕』を米軍機の襲撃からまもる目的で数多く建造されましたが、現存するものは府中市に2基(白糸台と朝日町)、三鷹市内に2基の合計4基が確認されています。

また掩体壕に隠した戦闘機『飛燕』は優秀な性能を誇りましたが、一万メートルの高々度から東京空襲をねらう『B29』を迎撃するには上昇能力において決定的な差があり、「帝都防空」の任務を達成することはかないませんでした。

この掩体壕は、東京大空襲の悲惨な出来事とともに、東京における戦争を語り伝えることのできる数少ない「戦跡」であり、近年の開発行為によって破壊・消滅させることはしのびないと、平和を願う人々の間でその保存が望まれているものです。(2頁へ)

(1頁から)

## 文化財に指定し小公園に

去る8月10日、原爆記念日など平和を祈念する催しが全国的に繰り広げられている最中、府中市内で「調布飛行場の掩体壕を保存する会結成記念のつどい」が開かれ、80人ほどの人々が府中市の内外から集まりました。

この日に結成された「保存する会」は、最も保存の可能性のある府中市白糸台2丁目の甲州街道南側沿いに現存する掩体壕について、府中市の「指定文化財」として登録すること、この掩体壕の存在する土地を市が買い上げるなどして小公園として整備することの2つの目標を掲げて、その実現を目指して、今後、署名運動などを展開することを決めました。

この集会では、多摩地域の戦争遺跡と保存運動にたずさわっている斉藤勉さん(八王子在住)が、多摩地域の戦跡の状況と保存運動について話され、掩体壕保存の意義についてもふれました。

また、当時の元調布飛行場勤務兵からは調布飛行場には米軍の空爆はなく、掩体壕は無用の長物におわった話や、調布飛行場建設のために土地提供と移転をせまられた関係者の話、戦況悪化のため数少なくなった機体を隠す必要性が出てきた当時の事情などリアルな回想談が特別報告者からありました。

この掩体壕の保存問題に関しては、2001年2月に府中市が行った「第5次府中市総合計画」への市民の意見・提案として、掩体壕を保存すべきとの意見が加えられています。

また、市民ボランティアがまとめあげた「府中市環境基本計画素案」にも掩体壕保存が市の歴史・文化分野としても重要な項目であることが盛り込まれています(舘 浩道)。

<連絡先>黒崎 啓 〒183-0031 府中市西府町  
1-32-5 TEL 042-362-7347

## 宮東都営住宅、景観に配慮して着工 当会も良好環境求め積極提案

府中の景観上重要な歴史的建造物である大国魂神社の東側に隣接する総面積7800平米の土地で、9月から都営住宅の建て替え工事が始まりました。



「府中かんきょう市民の会」では、この建て替えが東京都が指定した歴史的環境保全指針による景観保全に該当することから、大国魂神社周辺の景観の保全をはかろうと、昨年来、東京都南部住宅建設事務所などにたいし、都営住宅の建て替えにあたっては景観の保全に万全をつくすよう求めてきました。

建て替えられる住宅は、従来の平屋から中層4階建になることから、大国魂神社の景観にどの程度の影響がでるか心配されていましたが、当会の要望による同事務所側のシミュレーションによって、住宅の高さにおいてはほぼ影響がでないことが確認されました。

さらに4階建住宅の外観について調和を重視した彩色を施すよう求めてきましたが、これについても十分な配慮がなされることとなりました。

また当会はこの都営住宅南側につくられる公園(面積1950平米)について、もともと都営住宅用地は府中崖線を開発して建設された経緯もあることから、住宅用地の約4分の1をしめる公園について、大国魂神社や周辺の緑、崖線と調和するような公園造成を要望するとともに、具体的な樹種も武蔵野の林をイメージするものにするなどを提案(8月28日)してきました。

当会が提案した樹種はクヌギ、コナラ、エゴノキ、シデ等の落葉樹を主体とした高木と、林床植物についてコゴメウツギ、ウグイスカグラ、オトコヨウゾメ、ムラサキシキブ、ニシキギ、コウヤボウキ等の低木の類のほか、ヤブラン、ジャルヒゲなどの構成種を自然風に配置しようとするものです。

都営住宅の建て替えにあたって当会がこうした景観や環境をめぐる配慮を行うよう求めたことに対し、同事務所は基本的にこれらを受入れ、住宅建設の各段階でこれらを配慮した設計・施工を行いたいと回答しています。(舘浩道)



# 国立衛生研が進出してくる 府中基地跡地問題で府中市に要望

府中市浅間町2丁目の生涯学習センターの裏手のフェンスに囲まれたちょっとミステリアスな樹林地は現在、開発留保地となっています。

留保地は、府中基地の跡地で「現時点では予測できない将来の公共の需要に備えるもの」とされ、地元と国が利用できる15.3haの用地です。昭和56年から5年間の利用の凍結期間を経て、昭和61年から利用ができる状況になっていますが、これまで具体的な利用は行なわれていませんでした。

しかし、平成元年に国の施設である国立医薬品食品衛生研究所(以下、「衛生研」という。)が移転することが決まり、本年度から測量調査の予算が付き、事業が具体的に進められることとなりました。

これを契機として留保地全体の土地利用を考える機が熟したわけですが、府中市では、さまざまな理由からまだ具体的なビジョンを策定するに至っていません。でも、衛生研が計画している5階建てのビルや動物実験室の配置などは、市の将来的な土地利用に大きな影響を与えることが考えられます。

そこで当会としては、留保地には3つの課題があると考え、その対応を府中市に要望してきました。その大まかな内容を、お伝えします。

## ●要望1 留保地の自然環境の調査を

留保地は、返還されて50年から60年の間放置されてきた場所です。その環境には、すでに府中市内で絶滅した生物が生息している可能性があります。また、野鳥の生息環境や渡り鳥の中継地としての役割も指摘されています。

ですから、留保地の土地利用にあたっては、まず環境の実態を把握することが重要と考えています。



フェンスで囲われた基地跡地。  
荒廃状態で半世紀も放置されたまま。

果して、半世紀にもわたって人の影響を受けなかった環境は、どうなっているのでしょうか？

## ●要望2 留保地の土地利用の策定を

次は、なにはさて置き、留保地について府中市がこの土地をどのように利用したいかをはっきりさせることが必要です。

当会では、留保地については土地利用の課題が最も重要と考え、6月、市長に早急な検討をお願いする要望書を提出しました。

その内容は、①留保地の土地利用は100年先を見通したまちづくりの集大成 ②周辺も含めた環境形成に寄与するみどり空間の担保 ③ファミリーが1日過ごせるレクリエーションエリアの創出です。

この要望書に対して市長より、①厳しい財政状況から現在は土地利用計画を持ちうる状況にないこと

②市にとって貴重な土地であることを考慮して衛生研の用地を除き、引き続き留保地として残すよう国に要望するとの回答を戴きましたが、さらに緑地の拡充など留保地の具体的な構想を要望しています。

## ●要望3 衛生研の立地に対する安全性確保

留保地の土地利用に影響を持つ衛生研は、一方で、市民生活の安全性を脅かす施設になりうるものが危惧されます。

衛生研は、年間85件(2000年度実績)の遺伝子組み替え実験を行なっているバイオ施設です。危険性の低い細菌や病原菌を扱っているそうですが、実験材料の病原体や遺伝子組み替えで生じた未知の生物などが人為的ミスや事故によって漏出し、市民に被害を及ぼさないとも限りません。

そこで当会では、府中市に対し衛生研の実態を客観的に把握し、その結果を踏まえ安全管理協定等を締結することを要望しています。

以上が「府中基地跡留保地の賢い利用の市への要望」についての概要です。

国の留保地取り扱い方針では「大都市圏に残された数少ないまとまった土地で、再びこのような土地確保が期待できないため、長期的観点から有効利用を考える」とされています。

当会では、留保地の利用のあり方が、今後の府中市の暮らしやすさや心地よさをつくるために重要であるとの考えから、その賢い利用の仕方について市と一緒に取り組んでいきたいと考え行動しています。(落窪一人)。

# 環境ウォッチング 氷川神社参道 けやき並木 清瀬せせらぎ公園

9月17日、いまにも泣き出しそうな天候をなにするものぞと老若男女40名が、さいたま市の氷川参道けやき並木と、清瀬せせらぎ公園の見学会に出発した。

車中、世話人から武蔵一之宮氷川神社の創建や大國魂神社との類似点、社領の石高・門前町・五街道・宿場町などの説明を聞きつつ氷川参道へと向い、順調にさいたま市に到着。

市役所の中野主査等に迎えられ、いよいよけやき並木最南端の一の鳥居から氷川神社まで真直ぐ約2kmのけやき並木見学が始まった。老木、若木も適度に手入れされ、途中に“平成ひろば”という散策路とせせらぎのある広場も造られ、周辺建物もけやき並木の景観を大きく損ねることもなく、気持ちよく散策が出来る。

参道の終点は氷川神社で鬱蒼たる森林に囲まれ、さすが武蔵一之宮だという感じもした。



見事に保存されている氷川神社参道のけやき並木

この参道の改修は行政・市民と神社の話し合いの上で進められ、まだ続行中ではあるが氷川参道の一部車道を狭くして一方通行にし、駐車車両の排除に成功し、両側にあった歩道を片側に寄せて広くし、歩行者・自転車の安全を確保、透水性舗装による樹木への水供給の配慮、神社の祭礼に支障のないよう歩・車道の段差をなくし足元の安全にも配慮するなど多くの工夫がなされ、大いに参考になった。

市民・事業者・行政等による協働のまちづくりも進行しており、地元警察・埼玉大学の支援を得て交通実験調査を行うなどの取組みは見習うべきと感じた。

見学後、さいたま市の大宮総合行政センターで市職員によるスライドを用いての、けやき並木の保全や、交通対策・環境面等について説明を受け、そのあと活潑な質疑が交わされ、得るところが多かった。

午後は、清瀬市の清瀬せせらぎ公園をウォッチングした。この公園は完成して二年と新しいが、造成の経緯と活用方法で注目をあつめている。

平成元年、国からふるさと創世資金として全国の自治体に一億円が支給されるとき、清瀬市は用途を市民公募した。その折りに入選した使い道が河川改修で廃川になる空堀川の一部を利用しての清流復活であり、隣接する雑木林とあわせて水辺を親しむという散策路計画であった。

いまは清流に隣接する小学校の自然体験学習の場としても活用されるなど、周辺の緑地とあわせての計画が進んでいた。

駆け足の見学会も終わりに近づき、バスは国分寺方面から、わが府中のけやき並木へと入ってきた。

いつも立派に見える“けやき並木”が周囲のビルや自動車の排気ガスにやられて、こころなしか元気のない姿に見えた。早急に手当てをしないと府中の宝、国の天然記念物もなくなってしまうのではとの思いを抱いたのは私だけであろうか。(高崎 利夫)

## 「学校に水路を」と公開授業、南白糸台小学校

市内南東部にある南白糸台小学校で7月15日、6年生の子ども達の公開授業が行われた。

この小学校は府中崖線の南側に隣接しているが、現在の校庭は1975年頃までは、府中崖線からの豊かな湧水にめぐまれ、水と緑が豊かなところだった。しかし、住宅開発などで湧水は途絶え、学校建設で用水も暗渠と化してしまった。

昔の地域の自然を少しでも取り戻もどせないかと、学校ぐるみの取組みがスタートしようとしていることは前号でも紹介されたが、公開授業では子ども達自らが「学校に水路をつくらう」をテーマにグループにわかれて、様々な夢や提案を父母や地域の人たちに披露した。

紙芝居とペープサートを組み合わせてビオトープ作りを紹介したり、ジオラマ風に立体模型で池や水路の配置を提案したり、パソコンを使って水路と淡水魚の歴史を調べたりなど、さまざまな表現方法を駆使した、力と希望のこもった公開授業となった。

地域の高齢者は、当時の水路などの詳しい地図を共同で作成し、現在の小学校の位置と重ね合わせて、子ども達に説明するほほえましい姿もみられた。

6年生達は、水路の実現を確かめることなく卒業するが、自分たちが授業で語った夢を、後輩達が必ず実現してくれることを信じている。(舘浩道)



# NEC府中の「環境報告書を読む会」に参加して

府中市の環境学習の一環である「リスクコミュニケーションに関する環境学習会」にNECの協力を得た「NEC府中の環境報告書を読む会」(2002年7月30日、NEC府中事業場)に参加しましたので、その要旨を報告いたします。

I NECのリスクコミュニケーションにおける位置づけ  
開会挨拶では「NECはリスクコミュニケーションにおける東京都のパイロット事業である」と、また現在、「環境報告書の作成には、統一したものは無い」との説明がありました。

II NECの環境方針と取組み  
NECでは、「環境との調和を経営の最高課題」とし、環境マネジメントシステムをはじめ環境会計、環境監査、遵法監査、ISO14001の取得、加えて環境管理組織と体制等を整備し、積極的に環境保全対策に取り組んでいます。

III NEC環境報告書の説明  
具体的な環境活動と、昨2001年度の成果について次の6テーマの内容説明がありました。  
1 環境に配慮した製品の開発…NEC独自のエコシールの適用推進等、221件について達成

2 資源循環(廃棄物削減)活動の推進…一般廃棄物15%削減達成、産業廃棄物の総発生量削減等16%の削減達成

地球温暖化(省エネルギー)防止活動の推進…エネルギー総使用量1%削減目標→2.5%削減達成

3 化学物質の管理強化と削減推進…①法規制化学物質使用量1%削減目標→8%削減達成 ②間接資材(ガス)使用量1%削減目標→6%削減達成

4 資源有効利用の推進…①紙の購入量2%削減目標→22%削減達成 ②再生紙購入率96%以上目標…98%達成 ③古紙配合率85以上目標→93%達成

5 環境コミュニケーション ①環境教育計画実施率100%目標→100%達成 ②地域、自治体と地域貢献への主催イベント参加・協力20ポイント目標→48P達成

## IV 環境報告書を読む会へのお願いと感想

お願い: 次の機会には、全容判断のためNEC全社分及び府中事業場と共に構内関係会社の環境報告書を併せて発表されることをお願い致します。

総合的感想: 市民の環境保全の意識向上と、企業の経営戦略の調和、並びに地域の環境保全と地球環境保全のために、NECでは活発な活動を展開していることが理解でき、今後も一層積極的な活動に期待するところです(大崎清見)。

注: 達成率は各2000年度比

7月30日NECと府中市環境保全課の共催でNEC府中事業場が毎年発表している環境レポート(環境アニュアルレポート)を社内外の人達に説明する「環境報告書を読む会」がNEC/府中で行われました。当日はNEC社員、東京都職員、マスコミ関係者、府中エコリーダーの皆さん、環境団体など多数の参加者に交じって当会会員8名も参加し活発な発言も多く出されました。

NEC/府中の環境活動は環境配慮型製品の開発をはじめ、リサイクル、省エネ、化学物質の適正管理など6項目について毎年達成目標を定め、その成果をレポートで総括して内外に公表し環境にやさしい企業のイメージを印象づける狙いがあるようです。

今回の説明会は、「リスクコミュニケーションを読む」という別題がついており、危険を含む物質についての情報公開という意味で、化学物質の把握と排出管理、その削減努力の説明に重点がおかれておりました。

コンピューターに使用するプリント基板の製造工程で使われる化学物質のうち、東京都が適正管理化学物質に指定しているアセトン、IPA、塩酸、硫酸、ニッ

ケルの5物質について法律に基づいて使用目的、使用量、排出量まで数値を細かく把握し都に届け出るとともに環境レポートで公表し、法を遵守した環境汚染や災害を起ささない安全な企業であることが強調されておりました。

このレポートを読む限りNECの環境意識の高さと実行力は日本を代表する企業にふさわしい内容のレポートといえると思いました。しかし、このレポートにあえて疑問を呈するとすれば次の点ではないでしょうか。

(1) プリント基板製造工程では特定化学物質のほか色々な化学薬品類が使われますが、それら化学物質も適正に管理されているならば、それも明記し公表すべきではないか。

(2) 当日の説明ではNECの協力企業に仕事を移しているとも発言があったが、NEC本体だけではなく、協力企業に対しても環境全般に関して責任ある指導を行っているのだろうか。実施しているのであればそれも明記したほうが市民もより安心し、更に高い評価を与えることができるのだが…。こんな感想を持った次第です。(羽尻元彦)

# ヨハネスブルグ サミットが終わって

9月に開催されたヨハネスブルグサミットは、「ヨハネスブルグ宣言」と「実施計画」をまとめ、終了した。

地球温暖化現象が目に見えるかたちで進行し、途上国の貧困が危惧されるなか、10年前のリオでの持続的開発という国際合意をさらに前進・発展させることが期待されていた国際会議であった。

日本の外相や環境大臣らは、この会議は成功したと述べ、内外のNGOはこぞって失望感をあらわにしている。

われわれ市民は、ヨハネスブルグでのグローバルな議論もふまえ、今後の市民運動に生かしたいものである。

## 前進面と妥協

ヨハネスブルグサミットは期待が大きかっただけに、十分な成果が得られなかった分、失望も広がっている。成果がまったくなかったわけではない。たしかに部分的には、具体的取り組みを約束しあうという成果が見られる。しかしそれは、期待されている諸課題からすれば、ごく限られた分野の課題であり、迫り来る地球の気候大変動に人類が総力を挙げて対処するといった課題や、持続的開発についてのリオ原則のひとつである先進国と途上国との「共通だが差異ある責任」をめぐる、先進国および途上国がたがいに持続的発展を確実に保証する取り組みを約束しあう点でも、期待された到達点には至らなかった。

その数すくない成果とは、途上国の飲料水確保と衛生問題に関し、実施計画では「安全な飲料水や下水道を利用できない人の比率を2015年までに半減する」と書き込まれたことである。これ自体大きな成果であることは間違いない。国際社会がODAなどを通じて、必要ときに安全な水が飲めるようにすることは大いに意義あることである。

このODAについては様々な問題を抱えており、途上国の開発を援助するという目的から逸脱した現実が存在している。しかし途上国援助そのものを増大させることは、「先進国と途上国とのかつてない格差が世界の繁栄、安全、安定に大きな脅威となっている」(ヨハネスブルグ宣言)ことから、このODA目標を引き上げることは必要不可欠な課題である。しかし、このODA目標については、自国GNPの0.7%に到達していない先進国にたいし「実施計画」で「具体的努力を要請する」と書き込まれたにとどまった。

## 温暖化を加速させるグローバリゼーション

CO2を削減するなど、地球の温暖化を防止するための努力を巡って、会議では積極的な提案もなされた。EUは風力や太陽光といった再生可能エネルギーが化石エネルギーにとって替わらなければならないと主張し、2010年までに世界での、その割合を15%とする提案を行うとともに、本格的取り組みへの「宣言」も行った。また、途上国77カ国もその割合の国別・地域別目標の設定を主張したが、これにたいしアメリカ、日本および産油国が反対した。

結局、「実施計画」では「水力を含む再生可能エネルギーの開発・供給を多様化し、切迫感を持って再生可能エネルギーの比率を相当増加する」との表現に落ち着いていた。化石燃料に依存し続けるアメリカと…日本も、産油・石油製品の供給というグローバルビジネスが、関係する諸国を反対に回らせた結果であった。

ヨハネスブルグ宣言では「温暖化の影響は既に現実になっている。グローバリゼーションがこうした課題に新たな局面を加えた」と規定しつつも、このグローバルビジネス(多国籍企業)の規制について、「実施計画」では、「企業の環境と社会への責任を強化する」という表現にとどまってしまった。

## 遅れる京都議定書発効

京都議定書の発効は、このヨハネスブルグサミットがタイムリミットとされていた。しかし中国がこのサミット中に批准をすませた結果、すでに90カ国が批准した結果となり、カナダ、ロシアも近い将来の批准を約束している。この点について「実施計画」は、未批准国にたいし「適切な時期の批准を強く要請」することを求めた。

いっぽう京都議定書から脱退したアメリカは国際的批判を浴びているが、ヨハネスブルグでも、ブッシュ大統領が欠席したもとの、代理出席したパウエル米国务長官の演説にたいし「BUSH:PEOPLE AND PLANET, NOT BIG BUSINESS!」の横断幕や強烈なブーイングが起り、アメリカとグローバリゼーションが世界の温暖化対策と持続的発展にとって最大の脅威・妨害者であることを鮮明に印象づけた。

## NGOの役割

日本および国際NGOの役割は、このヨハネスブルグサミットでも期待されたし、また実際に現地で大活躍した。しかし国際交渉の場での問題点を指摘することはできても、その流れのなかで諸国民の声を代弁したNGOの要求を反映させるまでの力量は不足していた。特にアメリカ、日本など持続的開発と温暖化対策に終始反対の立場を鮮明にした諸国におけるNGO活動の強化、それぞれの国での世論形成にNGOは、今後よりいっそう努力がもとめられるだろう。(館浩道)



# ボランティア市民による 府中市の環境基本計画素案まとまる

## 100回以上も市民ボランティアが議論

平成12年8月以来2年間を費やし、58名からなる公募市民により練り上げてきた「府中市環境基本計画素案」がこのほどまとまり、8月29日開催の府中市環境審議会へ提出されました。

市民参加による「府中市環境基本計画素案」策定については会報の2001年秋号(2001.11.1発行)でも紹介しましたが、素案検討会が組織され、4つの分科会…①水と緑のまちづくり②快適なまちづくり③公害のないまちづくり④資源循環のまちづくり…を立ち上げて素案づくりがなされました。さらに平成12年10月からは平行して16名の代表委員による運営委員会で基本計画素案の取まとめを行いました。

この間、開催した会合は分科会、運営委員会をあわせ100回以上にもおよび、さらに素案検討会全体会を4回、市民説明会1回を開催し、内容の充実をはかりました。

## 560項目の環境テーマ盛り込む

内容は、日常生活から地球環境保全まで多種多様な環境施策約560項目が盛り込まれており、実行段階で短期から中長期にかけて取り組むという、幅広い内容となっています。この基本計画の内容は主に次のような3つの特徴を持っています。

環境施策の中でも特に重要性、緊急性が高く、優先的に実施する施策や、府中市の環境の特性を生かしていくための施策、即ち、府中らしい環境として、多摩川や浅間山、崖線、大国魂神社のけやき並木といった古くから残る自然環境のほか、歴史的文化的な環境などの特性を生かす施策を選び出し、重点施策

として10項目が盛り込まれています。

## 基本計画の推進体制も明確に

基本計画を実効性のあるものにするためには、行政、市民、事業者がそれぞれ主体的に行動し、かつ適切に連携しながら、計画に取り組むことが大切です。そこで、各主体が連携して推進協議会や活動支援センターの設置など、基本計画の推進体制を作って、計画の進捗状況の把握とチェックを行います。

## 基本計画の実行を評価する仕組みも検討

基本計画を推進する市民や事業者、行政などの連携組織から独立した組織を設置し、各主体の環境保全活動の進捗状況や目標達成状況をチェックします。評価は府中市環境審議会を中心として行なわれる予定ですが、市民参加による監査的な評価制度の検討も進めることになっています。

.....

この基本計画策定には、公募によるボランティア市民が初めから中心となって行政計画の素案作成に参加してきました。府中市ではあまり前例が無いこのことであり、今後の市民と行政との協働に関するたいへん良い前例になりました。「府中かんきょう市民の会」では、素案検討会に20名、運営委員会には16名中12名が参画しており、大きな実績をあげております。これからもこのような計画には積極的に参加して、行政との良きパートナーシップを形成してゆきたいと思います。(竹内 章)

## 西府ハケを破壊する 道路建設の行方

西府崖線(ハケ)は、シラカシ、ケヤキ、ニセアカシアなど、多摩地方特有の自然植生斜面樹林です。また市内に2カ所ある湧水の一つも残っており、このハケには、国立市域につながる用水路と遊歩道があり、市民の憩いの場所として親しまれています。

府中市はこのハケを「府中市段丘崖線緑地保全地域」に指定し、全市民の共有財産として大切に保全するよう呼びかけている管理緑地でもあります。

にも関わらず、JR南武線の新駅設置に伴う、周辺の市街地整備の一環として、この斜面緑地を壊す道路建設計画を知りました。

当会は環境破壊となるこの計画に対して、市長あてに要望書を出し、見直しを求めてきました。

去る6月、西府土地区画整理事業組合の設立が間近と聞き、市役所に区画整理事業担当を訪ねてたのだしたところ、ハケを道路にする当初計画は変更になったとのことでした。

この事業は市民の血税を投入する83億円の膨大な予算を組んでいます。税金の使われ方としても、今後の推移を見守るとともに、やはり道路は必要だなどと前言を翻すようなことのないよう一市民として注視するつもりです。一度破壊した自然生態系の回復は不可能であり、“緑ゆたかなふるさと府中を次世代に”とする市方針にも逆行します。(進藤礼治郎)



# 長池ネイチャーセンターと地球温暖化防止



エントランスホールの環境共生展示パネルは評判が良く、子どもも大人も建物の建て方の面白さを興味深く見ることが出来るでしょう。

そもそも、自然エネルギーの普及・推進は、地球環境保全のために、化石燃料からの脱却と二酸化炭素排出量削減を目的としています。

大量生産、大量消費、大量廃棄社会は終わりました。環境家計簿を記入し、CO2排出削減に努め、グリーンコンシューマーになりましょう。次の換算で家庭のCO2排出量が計算できます。

- 電気使用量(kwh) x 0.12→CO2排出量(kg)
  - ガス使用量(m3) x 0.64→CO2排出量(kg)
  - 水道水使用量(m3) x 0.16→CO2排出量(kg)
- (大草郁子)

平成14年7月21日の日曜日の午後、八王子市別所2丁目、長池公園内にある体験学習施設、長池ネイチャーセンターを見学しました。

自然エネルギーの活用はもちろん、環境と共生するための様々な工夫がなされていて、建物自体が環境学習の対象なのです。

太陽光発電装置、OMソーラーシステム、風力の動力利用や雨水の再利用システムなど、自然エネルギーをフルに活用している施設です。

8人のワークショップ探検隊は2つのグループに分かれて行動開始です。チェックシート…自然環境と共生するための10の工夫を参考にしながら、約1時間の予定で施設内部と外部のポイントを見てまわりました。その後、レクチャールームに戻り、グループ毎に視察結果を報告し、批評しあいました。

模造紙に良い点を三つ、悪い点を三つずつ書き出し、グループ毎に発表しました。結果は次の通りです。

長池ネイチャーセンターは長池公園の中にあり、立地条件は良く体験学習の場としても良い所です。しかし、風力発電や太陽温水装置もあった方がよいでしょう。壁面緑化をもっと多くし、外断熱も徹底すれば完璧に近くなります。

レクチャールームでは話し声が反響し、耳ざわりなので吸音壁を採用した方が良いのでは、という意見が出ました。

それから駐車場からエントランスホールまでのバリアフリー化を提案したいとの意見も出ました。



長池ネイチャーセンター(左上)では、外気を通年15度の地中に取り込み、室内の吹出し口(右上)から冷風がでており、真夏でもクーラー要らずだった。

府中市内の環境問題と取り組んでいます

府中かんきょう市民の会



- 市内各所のウォッチングで環境チェック
- 「レンゲまつり」など環境復元活動も
- 先進の取り組みを見学／講座開催など随時
- 市政への提案活動…市環境基本計画など

例会：毎月第2水曜、18時から「グリーンプラザ」7Fで

会費：年1500円／代表：横山 永望

連絡先：府中市浅間町4-18-12



古紙配給率100%再生紙を使用しています